

## 平成30年度 学校評価集計結果について

中央市立田富中学校  
校長 清水 千春

はじめに

本校の保護者、生徒、教職員に対して平成30年12月にアンケートを実施しました。アンケートの結果や今年度行われた全国学力学習状況調査・県学力把握調査の結果を考察し、自己評価を行いました。来年度に向けての改善策がまとまりましたので報告いたします。

### 1 アンケート項目について

アンケート項目は中央市内の各小中学校で同一内容にして実施しました。

### 2 評価について

「平成30年度 教職員・生徒・保護者の学校評価平均点と昨年度比較表」を掲載しました。



〈3年思春期体験授業〉

#### （1）評価平均点から考える「努力したい項目」「改善が必要な項目」

- \* 評価は4段階で実施し、平均値を2.5と考えました。  
また、評価平均点の数値を次のように判断しました。
  - 3.0以上「概ね良好」
  - 2.5以上3.0未満「努力したい項目」
  - 2.5未満「改善が必要な項目」

#### （2）前年度との比較

- \* 前年度の結果と比較して大きな変動があるか、 $\pm 0.3$ 以上の変化を見ました。  
生徒・保護者・教職員の各項目で $\pm 0.3$ 以上の変化があった項目はありませんでした。

#### （3）肯定率から

- \* 評価を4（そう思う）と3（ややそう思う）と、肯定的評価をしている割合を肯定率として算出してみました。90%以上を、取り組みの成果が出ている項目、70%以下を、本校の課題として来年度改善が必要な項目として判断すると
  - 90%以上を三者（保護者・生徒・教職員）が評価している項目は、昨年度と同様で2項目ありました。
    - ・ 1 お子さんは、学校生活を楽しく送っていると思いますか。
    - ・ 16 学園祭などの学校行事は生徒にとって楽しく充実していると思いますか。
  - 70%以下を三者が評価している項目はありませんでした。個々にみていくと、肯定率が70%以下の項目は以下の5項目になります。肯定率が低い順にあげると
    - ・ 55.1%（保護者） 9 あなたのお子さんの学力は、向上していると思いますか。
    - ・ 59.2%（保護者） 10 あなたのお子さんは、家庭で毎日学習していますか。
    - ・ 65.5%（生徒） 10 あなたは家庭で毎日学習していますか。
    - ・ 66.1%（保護者） 8 地域の人材や環境が教育活動に生かされていると思いますか。
    - ・ 70.0%（保護者） 6 先生方は、生徒ひとり一人が理解しているかどうか気を配っていると思いますか。

- 生徒の評価項目で最も肯定率が低かった項目は、以下になります。
  - ・ 65.5%（生徒） 10 あなたは家庭で毎日学習していますか

### 3 三分類（「概ね良好」「努力したい」「改善が必要」）した評価について

#### （1）総括

三者の平均点は、昨年度と比較すると上がっている項目が多く見られました。『先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか』『先生方は、あなたのお子さんのことを良く理解していると思いますか』『学

園祭などの学校行事は、あなたのお子さんにとって楽しく充実していると思いますか』『学校は人の生き方について考えさせる等、豊かな心を育てようとしていると思いますか』の4項目は、前年度と比較して+0.1以上と大きく向上しました。多くの項目が向上している中で、前年度と比較して下がった項目は4項目です。

『生徒会活動や委員会活動は充実していると思いますか』が-0.08ポイント、『あなたのお子さんの学力は、向上していると思いますか』が-0.06ポイント、『あなたのお子さんは、目標を持って学校生活を送っていると思いますか』が-0.02ポイント、『部活動は、あなたのお子さんにとって充実した活動になっていると思いますか』が-0.01ポイントでした。

教職員と生徒の評価が比較的高く、どちらも平均で3.39であり、保護者の評価が比較的低く、平均で2.96でした。三者別に平均値が最も低かった項目をみると、教職員と保護者は『あなたのお子さんの学力は向上していますか』が最も低く、教職員3.00・保護者2.65でした。生徒は『あなたのお子さんは、家庭で毎日学習をしていますか』が最も低く、平均値は2.86でした。教職員・生徒・保護者ともに学力向上に課題があることを指摘しています。



〈地域人材による琴の授業〉

今年度、生徒と保護者との比較で開きが大きかった項目は、『地域の人材や環境が教育活動に生かされていますか』『あなたのお子さんは、意欲的に授業に取り組んでいますか』『先生方は、生徒指導に力を入れていますか』で0.5ポイント以上の大きな開きがありました。3項目とも、生徒の評価が高く、保護者が低くなっています。「社会に開かれた教育課程」という視点で、学校が保護者・地域とともに生徒を育てることを考えたとき、保護者と生徒・教職員との認識をある程度一致させていくことが重要になります。そのためにも、情報発信等、様々な手立てを行っていきたいと考えます。

## （2）「概ね良好」（3.0以上）の評価について

\* 以下の13項目については、保護者、生徒、教職員とも3.0以上に評価しました。

- ・ 1 生徒は学校生活を楽しくしていると思いますか
- ・ 2 あなたのお子さんは目標を持って学校生活を送っていると思いますか
- ・ 3 学校は家庭に適切な連絡や情報提供を行っていると思いますか
- ・ 4 学校は、安全性が確保されるように教育環境が整えられていると思いますか
- ・ 5 先生方はわかりやすい授業に努めていると思いますか
- ・ 12 相談事や悩みなどに、先生方は適切に応じてくれていると思いますか
- ・ 13 先生方は、いじめなどない楽しい学級づくりに努めていると思いますか
- ・ 14 先生方は、生徒指導に力を入れていると思いますか
- ・ 15 先生方は、あなたのお子さんのことをよく理解していると思いますか
- ・ 16 学園祭などの学校行事は、あなたのお子さんにとって楽しく充実していると思いますか
- ・ 17 部活動は、あなたのお子さんにとって充実した活動になっていると思いますか
- ・ 18 生徒会活動や委員会活動は、充実していると思いますか
- ・ 19 学校は人の生き方について考えさせる等、豊かな心を育てようとしていると思いますか

昨年度より4項目増えました。共通19項目の内13項目が概ね良好と評価されました。領域別に確認すると、学校経営・生徒指導・特別活動ではすべての項目とも3.0以上となりました。

## （3）「努力したい」（2.5以上3.0未満）の評価について

\* 三者がそろって2.5以上3.0未満の評価をした項目は、今年度はありませんでした。しかし、前述したように「家庭学習の習慣化」「学力向上」は喫緊の課題です。「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業改善に向けて校内研究をより一層充実させるとともに、「授業と家庭学習の有機的な結びつき」「学びの大切さ」などを切り口に、生徒とともに「家庭学習の習慣化」「学力向上」について考える二者面談等の教育相談活動を充実させていきたいと考えます。また、保護者とも、課題解決のための連携協働体制を推進していきたいと考えます。



〈校内研究授業の様子〉

## （4）「改善が必要」（2.5未満）

今回のアンケート調査の結果で平均値以下の2.5未満の項目は、1つありませんでした。

## 4 評価に対する考察について

### (1) 「概ね良好」(3.0以上)の評価について

「概ね良好」(3.0以上)の評価を見ていくと、学校経営・特別活動の全項目、生徒指導(教職員の『あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思いますか』を除く)の全項目、教科指導の教職員・生徒(「あなたのお子さんは、家庭で毎日学習をしていますか」を除く)全項目等、ほとんどの項目で3.0以上の評価をいただくことができました。しかし、本校の地域や生徒の状況を鑑みれば、現状に甘んじることがあれば、生徒指導に対する困難な状況となることも考えられます。結果に甘んずることなく、さらに力を入れていくことが求められていると考えます。

また、項目No.11『あいさつがよくできていると思いますか』は学校経営方針の重点項目でしたが、教職員・生徒・保護者ともに昨年の評価を上回りました。PTAの役員の方のご協力の下、教職員や生徒会本部役員合同であいさつ運動に取り組んだこと、毎月第一月曜日に保護司・更生保護女性会の皆様と生徒会や教職員が協力して、あいさつ運動に取り組んだことの結果があらわれていると思います。しかし、教職員の評価で唯一3.0に届かなかったのが『あなたのお子さんは、あいさつがよくできていると思いますか』の2.86であり、教職員が考えている「あいさつ」との差異があることがわかります。「あいさつ」は子どもたちが将来社会に出てから大切なこととなりますので、今後様々な機会を通じて、十分な定着をめざしていきたいと思っております。保護司・更生女性会・保護者・生徒会役員による「あいさつ運動」は非常に効果的だと思っておりますので継続するとともに、「あいさつの意義」を生徒たちに考えさせる機会を設けていきたいと思っております。

### (2) 「努力したい」(2.5以上3.0未満)の評価について

「努力したい」＝「努力しなければならない」2.5以上3.0未満の項目は教科指導に集中していました。保護者は『先生方はわかりやすい授業に努めていると思いますか』が3.10であった以外は教科指導のすべての項目が2.5以上3.0未満でした。また、生徒は『あなたのお子さんは、家庭で毎日学習をしていますか』が最も低く、平均値は2.86でした。これは、保護者や生徒の学校への期待が「学力向上」であることがはっきりと見てとれました。

### (3) 「改善が必要」の評価について(2.5未満)

今年度も2.5未満の評価項目は1つありませんでした。

## 5 成果と課題について

### (1) 【成果】今年度取り組んだ事への評価と考察

今年度、重点課題として2点を設定しました。①「地域の人材や環境を教育活動に生かしていく」、②「毎日の家庭学習の習慣化し、学力の向上を図る。」です。①については、今年度も昨年度同様に、1学年では、弁護士出前授業や租税教室、職業講話、2年生でも、弁護士の出前授業や保護司に学ぶ会、3年生では、思春期ふれあい体験、人権教室(人権擁護委員)を行いました。また、全校では、交通安全教室、芸術鑑賞、情報モラル教室、PTA研修部主催の本校卒業生田中正幸氏による講演会、薬物乱用教室を実施しました。更に、今年度は、音楽科の授業において2名の講師を招き、伝統音楽(琴)の授業を実施しました。中学校では教科指導に外部人材を活用することは難しい面もありますが、生徒から大変好評であり教育効果もあがりましてので、今年度の実績をもとに来年度以降も教科指導における外部人材の活用を検討・実施していきたいと思っております。

②については、本年度も『気づき、考え、実行する生徒の育成』を研究テーマに校内研究に取り組み、「学力向上」や「家庭学習」の項目を改善すべく取り組んできました。また、今年度は研究支援協力校として、総合教育センターの指導主事の先生方・山梨大学教職大学院の先生方の指導を受けながら、授業力向上に主眼を置いた研究授業・校内研修を行ってきました。「学力向上」については三者の平均を好転することはできませんでしたが、生徒・保護者ともに「学力の向上」以外の教科指導の項目は昨年度より数値が向上していて、取り組みの成果が表れてきていると捉えることができます。3学期以降、来年度に向けて「山梨スタンダード」を高い次元で実施することや校内研修の充実など組織的な取り組みを行う一方、「やまなし教員等育成指標」を念頭に教職員一人一人が自己研鑽に励んでいくことを確認し、一層の取り組みを始めています。また、今年度の全国学力学習状況調査(3年)・県学力把握調査(2年)では、「書くこと」「根拠を示して自分の考えを表現(書く)すること」に共通の課題がみられるので、各教科等の授業に意図的に「書くこと」「根拠を示して自分の考えを表現(書く)すること」を中心とした言語活動を取り入れていきます。これらの取り組みを家庭学習に有機的に結び付けていくために、スクールライフを活用しての助言・各学年学級で取り組んでいる家庭学習ノートの活用を充実させるとともに、家庭との連携協働体制を推進していきたいと思っております。

## (2) 今後の取り組みについて

今年度は、多くの項目で昨年度を上回る結果になっています。今年度の取り組みを引き続き、充実させていきたいと思ひます。「学力向上」「家庭学習の習慣化」の2点を来年度の重点課題としたいと思ひます。

### ①『学力向上』

この項目は、保護者の肯定率が55.1%・評価平均が2.65、生徒の肯定率74.8%・評価平均が3.01と保護者・生徒の肯定率・評価平均が低くなっています。学力向上は学校教育の根幹であり、本校においても喫緊の課題であると思ひます。

- ・「山梨スタンダード」を高い次元で実施する。
- ・生徒が達成感や成就感を持てる授業を工夫する。
- ・生徒に一人一人に気を配り、個に応じた学習指導を進める。
- ・言語活動を効果的に取り入れる。

[担当] 教務主任, 研究主任, 教科主任, 教科研究会等

校内研究を通して、生徒が主体的に学習課題に取り組み、学習を深める「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行い、達成感や充実感の持てる授業実践を目指し研究を進める。

### ②『学習の大切さを感じ、家庭学習の習慣化を図る』

この項目は、保護者の肯定率59.2%・評価平均2.75、生徒の肯定率65.5%・評価平均2.86と肯定率・評価平均ともに低くなっています。毎年課題となっている項目です。対策についても校内研究と連動させて講じてきていますが、なかなか改善が図られていないのが現状です。

- ・スクールライフの活用
- ・家庭学習ノートへの取り組みの充実
- ・「学びの甲斐善八か条」(県教委)を活用した取り組みの実施
- ・「山梨県家庭学習実践事例集」を校内研究で取り上げ、本校の取り組みに活かしていく。
- ・家庭生活(スマホ・TV・ゲーム・携帯電話利用等)について生徒とともに考える機会を設定する。学年総会等で保護者にも協力をお願いする。

[担当] 研究主任, 学年研究担当, 生徒指導部会, 各学年部会



〈道徳教科化に向けた研究授業〉

## 6 その他

### (1) 三者からの回答数

・生徒	438名	回収数	417名	(回収率	95%)	理由: 欠席・無回答
・保護者	438名	回収数	363名	(回答率	83%)	
・教職員	32名	回答数	32名	(回答率	100%)	

### (2) ご意見ご要望について

本年度も多くのご意見ご要望をいただきました。様々な考えがあることを十分に理解することができました。「学力向上」や「生徒指導」への期待を読み取ることができましたので、改善できるところは3学期のスタートにあたり、全職員で改善点を確認し、教育活動にあたっています。

一方、アンケートを無記名で実施したため、対応内容や改善策をお伝えしたくてもできない、ご意見ご要望の内容を確認したいけれど確認できないといった課題が出てきています。来年度以降は記名式でアンケートを実施したいと考えています。

来年度も「中央市の教育の基本『まごころ』」「校訓『誠実』」「学校教育目標『豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』」を基本に教育活動を推進していきますが、保護者の皆様のご意見を学校教育に活かすことは非常に大切なことであると考えています。今後ともご理解とご協力、ご支援をお願いいたします。



〈あいさつ運動〉



## 7 学校関係者評価委員会（3/12実施）

### 【学校関係者評価委員からいただいたご意見・ご意見に対する回答】

#### ①（学校関係者評価委員）

学校からも学力向上が最大の課題であるとの説明があったが、保護者の立場でも学業第一であると考えている。学校の説明では全国学力・学習状況調査等の客観性のある調査での結果を中心に見取っていただけるとの話で安心したが、保護者には全国学力・学習状況調査等の結果や経年の推移が伝わりにくく、保護者は我が子の通信表の評定や定期テスト等の順位で、学力が向上したか判断しているのではないかと。「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、研究支援協力校として校内研修を充実させ、授業改善に取り組んでくれていることを私は知っているし内容もわかるが、全体に向けては、もう少し具体的に、保護者にわかりやすい言葉で発信していただくとありがたい。校長先生には申し訳ないが、年間19回にわたって、学校だよりを発行していただいている、学校生活のほとんどを理解できたので学校だよりを引き続き発行していただきたい。

（回答・今後の方向性）

グローバル化・情報化が急激に進展する中、先行き不透明な未来社会を生き抜く力を生徒に身につけさせることは、学校の使命であると考えています。特に、生涯にわたって学び続ける力を身につけさせることは最重要課題であると考えます。また、多様な考えを受け止めて自身の考えを広げ深め、多様な考えを持った人と協働できる生徒を育成することも喫緊の課題であると考えています。そのために、日々の授業を実社会（未来社会）に近づける必要があります。解がひとつに決められないような課題において最善解を見出そうとする力を育成すること・生徒自身にしっかり考えを持たせた上で話し合い活動を行うこと・他者の意見を受け止めて更に自分の意見を広げ高めようとする力を育成すること・協働により課題解決する力を育成すること等々、更に授業改善を推進していきます。そして、これらの活動を具体的に、わかりやすい言葉で保護者や地域に発信していきたいと思えます。保護者・地域社会により詳細に発信することにより、協力を得ることにより、社会に開かれた教育課程の理念である「学校と地域の協働による生徒の育成」を実現していきたいと思えます。

#### ②（学校関係者評価委員）

朝、交通安全指導を行っているが、田富中の生徒は良くあいさつします。他の人からも、横断歩道等で止まってくれた車に生徒達はしっかりお礼を言っているという話を聞いています。

（回答・今後の方向性）

生徒会本部役員・PTA生徒指導部等による年2回のあいさつ運動に加え、今年度は保護司・更生保護女性会の皆様と生徒会本部役員によるあいさつ運動を月1回（今年度は年度途中からになったので計9回）実施しました。地域の方の力をお借りする中で、生徒のあいさつに対する意識も向上してきました。また、校内でも各学級・各部活動で取り組んできました。来年度も保護司・女性更生会の皆様の力をお借りする中で、社会に出て必要となる資質のひとつである「あいさつができる人（生徒）」を育成したいと思えます。

#### ③（学校関係者評価委員）

地域の子供たち（中学生以下も含めて）を指導していて接する機会が多いが、自分の考えが言えない子供が多いと感じる。

（回答・今後の方向性）

主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善の場面でも説明しましたが、話し合い等の前に、まず自分の考えをしっかり持つことが大切だと考えます。今年度の全国学力学習状況調査の分析においても、「根拠を明らかにして自分の考えを述べる。」ことが本校の課題であることがわかり、年度途中から、自分の考えをノートに書かせる活動・考えを発表させる活動を授業の中に意識的に取り入れてきましたが、更に充実させたいと思えます。また、話し合い活動のルールとして、「自分の考えを述べる」と「友達の考えを聴く」等も徹底させていきたい。

#### ④（学校関係者評価委員）

今日の卒業式は素晴らしく感動しました。先生方のご努力に負うところが多いと思えます。引き続き、ご指導お願いします。

（回答・今後の方向性）

日頃から地域の方々のご支援があつてのものです。今後ともよろしくお願ひいたします。評価項目にはありませんが、不登校生徒の存在も本校の課題です。わかる授業の実現・一人一人が活躍できる場面をつくること・居場所づくりや環境づくり等に、より一層努めるとともに、個々の悩みや考えに向き合った指導を更に充実させたいと思えます。